

駅にて、（私は走馬灯の欠片とすれ違ったような気がした！）

呉東校

忙しなく案内を続ける改札の前で、

蛍光灯は私をレコードの針に仕立て上げた

人の流れがスロウに見える今、

（この瞬間にも世界は回転している！）

電光掲示板はいつにも増して饒舌に

不安げな視線を一身に受けとめていた

家に着くまでの時間を検算することに忙しくって、

忙しくって。

線路の先に転がった痛みから気を逸らしている

ワルツのリズムが砂を噛むように

いくつもの革靴が床に張り付いたガムを黒く、

ながくながく引き延ばして

悪い報せに飛びつく一過性の関心をよそに

自分にとっての明日がまた来るといふ漠然とした問題への回答に躓いたところ
ろで、

重たい瞼が再び開かれることに一喜一憂する

そして夜はまた顔を覗かせて、私のおセンチを嘲笑うのだ

幕間

想定外の休符が配置された夜に